



社会医療法人近森会

発行

2016年11月25日

# びろっば 12

Vol.365

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目 1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 寺田文彦

## 近森病院 70 周年

# 70 年を振り返って

社会医療法人近森会理事長 近森 正幸



### 近森外科の開院

1946年南海大地震の3日後の12月



▲近森正博初代理事長

24日に近森外科が開院された。父の正博が診療して、母孝子が給食、部下で元衛生兵の寺尾佐多馬事務長の3人での



▲1951年(S26)当時の本館(現・本館A棟)  
▼1956年(S31)当時の別館(現・オルソ病院)



小さな組織から出発した。38年後の1984年11月26日に父が亡くなった当時、すでに医師が21名、スタッフが422名、ベッド数は579床になっていた。70年後の現在では、近森会全体で2,300人のスタッフ、常勤医師141名、高度急性期からリハビリテーション、在宅まで、792床の大きな組織となった。

### 野戦病院のような

私が高知に帰ってきた1978年当時の近森病院は、准看さんが当たり前の時代で、付き添いさんが吸うタバコのヤニで壁は黄色くなり、秋刀魚を焼く煙で非常ベルが鳴るような死亡率13%の、まさに野戦病院のような病院だった。

リハビリ機能をもたない救急病院は「寝たきり製造病院」にならざるを得なかった。寝たきり患者さんが増えれば増床を繰り返していた。ある意味、父の時代は「量的拡大の時代」であったが、一方で、重症患者さんを集めた

院内ICUや中央手術室といった機能の集中や組織づくりについて、合理的な考え方を近森病院の風土として植え付けてくれた。

### 量的拡大から質的向上へ

私が1984年に院長、理事長に就任した当時、相前後して第一次地域医療計画が始まった。ベッドの多い高知県では増床ができなくなり、量的拡大から「質的向上」に方針の大転換を行った。機能を絞り込んで医療の質と労働生産性の向上を図った。1987年には増床を伴わない近森病院初の増改築を行い、中央診療部門が完成、現顧問の梶原和歌を本院の総婦長代理として迎え、近森病院の基準看護が始まった。

さらに虎ノ門病院分院の石川誠先生を招聘し、1989年には近森リハビリテーション病院が開院した。ここでの実践をもとに、回復期リハビリテーション病棟の診療報酬が創設され、急性期から回復期、維持期のリハビリ

次頁へ続く



▲現在の近森会。江ノ口川南岸にリハ病院、北岸に近森病院外来センター、本館と並ぶ  
▼1979年に発行された『今日の近森会II(分院落成記念)』に掲載された航空写真。旧本館及び旧北館が南北に並びその上に現在管理棟第二別館の分院、その左上に旧高知駅



前頁から続く

テーションの流れ  
ができ、日本の医  
療に大きな影響を  
与えた。

同年、北村龍彦  
副院長を中心に総  
合医療情報システ  
ムが完成し、電子  
カルテシステムへ  
の足がかりをつ  
くってくれた。

こうして「基  
準看護」、「リハ  
ビリテーション」、

「トータルコンピュータシステム」の  
三大プロジェクトが実現したことによ  
って、機能分化と連携を強力に押し



▲高知橋からの現在の近森会。江ノ口川南岸（左手）に近森リハビリ病院、右手に近森病院の本館と外来センター

進めることとなった。

### 機能を絞り込んで 地域医療連携と病棟連携

1999年整形外科の衣笠清人部長の  
発案で、落ち着いた外来患者さんを  
地域のかかりつけの先生方に逆紹介さ  
せていただき、外来は外傷などの救急  
対応と紹介外来、手術後の専門外来に  
徹底的に絞り込んで「地域医療連携」  
を押し進めた。これは2002年のハー  
トセンターの開設、ERの設置を経て、  
2003年には高知県初の地域医療支援  
病院として実を結んだ。

2011年には完全紹介予約外来制の  
近森病院外来センターが完成すること  
で、地域医療連携がほぼ完成するこ  
とになった。またこの年には、高知県で  
は民間で初となる救命救急センターに  
指定された。これまで浜重直久副院長  
が営々と築き上げてきてくれた大内科  
制が救急医療に大きく貢献することに  
なった。

2000年には入江博之部長により、  
民間では高知県初となる本格的な心臓  
血管外科が開設され、高度急性期医療  
に対応するとともに、ICUが開設され、  
重症の患者さんを高規格の病棟で診  
て、落ち着いたら一般病棟へ移って  
いただくという「病棟連携」が始まった。  
現在はICU18床、救命救急病棟18床、  
HCU16床、SCU24床、合計76床の  
重症病棟が整備されている。

### 病棟常駐型チーム医療

看護師の業務を看護というコア業務  
に絞り込んで、専門性が高く自立、自  
動するリハスタッフや薬剤師、管理栄

養士、臨床工学技士、ソーシャルワ  
ーカーなどの多職種が病棟に常駐し、そ  
れぞれの視点で患者さんを診て、判断  
して、介入する「病棟常駐型チーム医  
療」を推し進めている。

2007年には整形外科専門の近森オ  
ルソリハビリテーション病院が開設さ  
れ、近森リハビリテーション病院とと  
もに多くのリハスタッフを育ててくれ  
た。また2002年には臨床栄養部の宮  
澤靖部長が栄養サポートを始め、日本  
のトップレベルのチームを作り上げて  
くれた。高齢社会の医療の両輪である  
リハビリテーションと栄養サポートが  
充実していった。

### 21世紀の医療に対応できる病院へ

2010年には高知県初の社会医療法  
人となって民間の活力をもった公的病  
院になるとともに、2010年から7年  
計画で近森会全体の増改築工事が始  
まった。近森病院は338床から114  
床増床し、452床の高度急性期病院に  
なるとともに、第二分院の精神科を  
104床から60床の急性期治療病棟に  
特化し、総合心療センターとして近森  
病院に統合した。

近森リハビリテーション病院は  
2015年江ノ口川南岸に新築移転し、  
翌2016年は近森オルソリハビリテ  
ーション病院も旧近森リハビリ  
テーション病院を改築して移転、近森  
病院附属看護学校も旧近森オルソリ  
ハビリテーション病院を改築し移転した。

こうして21世紀の救命救急医療に  
十分対応できる近森会の体制をよう  
く整えることができた。

ちかもり まさゆき

## 12月の歳時記

### シクラメン

近森リハビリテーション病院  
5階病棟東介護福祉士

主任 寺川 幸

11月から3月  
に咲く、サクラ  
ソウ科の花。ク  
リスマスが近づ  
くと、ピンクや  
赤の色鮮やかなシ  
クラメンが町を飾りま

す。四季折々、咲く花は季節を感じ  
させてくれます。我が家では、娘が  
お花を習っていて玄関に、花を生け  
ています。一輪挿しでも十分に季節  
を楽しむ事ができます。みなさんも、  
自宅に花を飾ってみませんか？

てらかわ さち

絵・近森病院  
附属看護学校  
事務局  
南幸子





## その人らしい生活のために！

近森病院総合心療センター病棟看護師長 山中 俊典

総合心療センターには60床の病床があり、4階の開放病棟と5階の閉鎖病棟からなる急性期精神科病棟です。私は、今年の4月から両病棟の師長になりました。

病棟スタッフは総勢30名で、看護部理念にあるように患者さんの「その人らしい生活ができるように」を考えながら働いています。患者さんと向き合い、病気のことや今後の生活を患者さん自身が考えることができるように支援しています。棟では、毎日カンファレンスを行っています。カンファレンスといっても、多職種チームや地域の

担当者らと行うもの、また病棟看護師だけで行うものなどさまざまあります。「その人らしい」を考えるために、若手からベテラン看護師までそれぞれの考えや思いを出し合います。

出された意見に対し否定はしませんが、時に口論（論争？）になることもあります。仲が悪いからではありません。患者さんのことを考えるがゆえに熱くなり、白熱した討議になるのです。そんな熱い思いを出し合える風土が私の病棟の強みであり誇り



でもあります。

これからも患者さんと向き合い、その中でスタッフも互いに切磋琢磨しながら成長していける、そんな病棟でありたいと思います。

やまなか としのり

## 30年永年勤続表彰 受賞

画像診断部技師長 中村 伸治



岐阜で行われました「第32回日本診療放射線技師学会」において「日本診療放射線技師会 30年永年勤続表彰」をいただきました。

こちらは高知県の技師会からの推薦に履歴書を添えて申請し、審査を経て、表彰状と副賞（ういろう）をいただいたものです。同級生も受賞し、お互いにお祝いました。

なかむらしんじ

## 糖尿病デーイベント

世界糖尿病デーにあわせてイベントを開催しました。血糖測定や運動療法指導などを行ない、たくさんの方にご参加いただきました。



近森会  
保育室 そると

10月29日、快晴の秋晴れのもと、そるとのおいも掘り遠足に、春野のハビリテーリングセンターの畑に行ってきました。





## VHJ 研究会第 27 回職員交流研修会に参加して

今年度は大分中村病院が幹事病院となり、29施設約300人の参加がありました。

VHJ 会長麻生泰氏の開会挨拶の後、亀の井別荘の代表取締役社長の中谷健太郎氏の特別公演「Happy Birthday to you~湯布院にいきて~」と社会福祉法人「太陽の家」の副理事長山下達夫氏の講演がありました。

1965年に設立された「太陽の家」は障害者の働く場づくりに取り組み、DVDでも高度な技術を持ち、生き生きと働く障害者の方々が紹介されていました。「世に身心障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」、「保護より働く機会を」の言葉が印象的でした。「経営戦略」「看護管理」「災害対策」「人材育成」「急性期リハ」「地域医療連携」の六つの分科会に分かれ、研修会がありました。今年の看

近森病院 看護部長 吉永 富美

護管理のテーマは、「地域包括ケアシステムにおける看護の視点~地域の特性から考えた退院支援~」で、恵寿総合病院、聖マリア病院、淀川キリスト教病院からの活動報告がありました。

各院とも人員を配置するのに厳しい状況にありますが、在院日数が短くなった今、入院前からの退院支援や退院後の関わりが重要で、看護師がもっと患者の生活の状況を理解する必要があるとの意見が出ました。退院支援リンクナース



の養成や、クリニカルラダーに訪問看護ステーションや施設での研修を組み合わせる必要性などを話し合いました。

看護師がもっと退院支援に関わり、患者・家族の思いや生き方を理解した退院支援ができるようなシステム作りが必要であると感じました。各施設の方々と交流ができ、有意義な時間を過ごすことができました。

よしなが ふみ



## あなたの撮った近森会

高知市第 32 回  
都市美デザイン賞受賞記念



撮影・オフィシャルカメラマン笹岡利雄

「爽やかな青空のもと、ゆっくりと通り過ぎる秋を探してみました」



## 第 155 回地域医療講演会

2016年10月21日

## 脳血管障害における 歯周病の影響

▼講師の広島大学医学部脳神経内科学の細見直永先生



近森病院神経内科

部長 葛目 大輔



広島大学医学部脳神経内科学の細見直永先生をお招きして、「脳血管障害における口腔内細菌の影響」という演題でご講演を賜りました。

ご講演では、脳卒中や心房細動と口腔内細菌との間に関連性があることが近年報告されており、口腔ケアの重要性を強調されました。健康寿命の延伸には高血圧や糖尿病などの管理だけではなく、入院中に口腔ケアを行って、

誤嚥性肺炎の発症予防や新たな大血管病の発症予防に取り組んでいく必要があると思われました。

なお、当日午後には鳥取地震が起きたため、一時、講演会の開催が危ぶまれましたが、細見先生などの機転によって無事開催にこぎ着けたことに関して、細見先生や当院スタッフの方々に感謝申し上げます。

くずめ だいすけ

## 後発品が多くなって……

近森病院皮膚科 科長 高田 智也

最近薬を処方する際に後発品を選択することが推奨されています。後発品は自己負担が安くなるメリットがありますが、色々な問題もあります。皮膚科でよく使用する外用剤の後発品でもいくつかの問題があります。

ひとつは“使用感”の問題です。外用剤では塗り心地や刺激感、臭い等も気になります。そのため有効な薬剤でも、十分に外用ができないため効かない、ということがあります。先発品は医師が自分で使用感などを確かめることができますが、多数販売されている

後発品については不明な点が多く、実際に塗ってもらうまでは継続使用できるか分からないことがあります。

ふたつ目は“外用指導”の問題です。内服薬に比べ、外用剤は患者さん自身が適切に使用しなければ効果を十分に発揮することができません。皮膚科の診察では正しい塗り方の説明（外用指導）も重要です。説明は、実際に処方する薬剤（先発品）を見せながら、使用方法を説明しますが、後発品を選択された場合は、見た目が違う外用剤が処方されます。以前のように“ピンク



の薬は乾燥肌に使ってください”では通用しなくなりました。

他院で処方された外用剤の確認の際も困ります。患者さんは薬剤名を覚えていることが少なく、「青のチューブの薬」などと言われるため、それが後発品の場合は全く検討がつきません。薬手帳を持参していただくと本当に助かります。

たかた ともや

## 第56回 高知県精神保健福祉大会

2016年10月19日



## うつ病とリワーク ～就労と再生の支援～

近森病院総合心療センター  
デイケアパティオ主任 川淵 忠義

10月19日に高知県民文化ホール（グリーンホール）にて、県民の方を対象として高知県精神保健福祉協会主催の第56回高知県精神保健福祉大会が開催されました。

本大会は、毎年開催されており、当日は約380名の参加がありました。今回は「うつ病とリワーク～就労と再生の支援～」をテーマに、講演とシンポジウムが行われ、「うつ状態とリワーク再考」と題して、北海道札幌市街地にある「医療法人社団ほっとステーション」理事長の山田秀世先生より、リワークとリ



▲当センターでのリワークデイケアの取り組みについて発表する筆者（右端）

カバリーデイケアの実践や、森田療法のエッセンスを交えた講演がありました。

その後のシンポジウムでは、シンポジストとして当センターでのリワークデイケアの取り組みについて、筆者も発表する機会をいただきました。

医療、障害者職業センター、産業の各分野からなるシンポジストで構成され、それぞれの立場でのうつ病の就労支援について、意見交換をおこな

▲宮崎洋一総合心療センター副センター長（左）と医療法人社団ほっとステーション理事長の山田秀世先生

うことができ、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。

かわぶち ただよし

本館受付前水槽 僕らはみんな生きている3

## カージナルテトラ



患者さんアンケートの要望に応じて、水槽のお魚の紹介です。



水槽のなかでは小さい方の熱帯魚だが、メタルブルーと赤の色の対比がよく目立っている。魚体の小ささに似合わず貪欲なほど食欲旺盛だが、相反するように、臆病者の性格で、すぐに水草などの影に隠れてしまうという。（編集室）





30周年 1976年 近森病院 352床、職員数 256名

近森病院



◀前列右から寺尾事務長、近森正文（正博の兄）、正基（同父）、正博（先代理事長）。当初は木造平屋60坪の診療所だった

▼消化器内科診察室（以下、1976年発行の『創立30周年記念誌』当時のもの）



ffマーク、スカイブルーとフリーダム&フレキシビリティ（自由、柔軟）を現している



▲手術室。当時の総手術件数は1976年838件であった。救急病院であり緊急手術が多く、外傷の占める割合が高かった。医師13名、看護部129名、薬剤師6名、放射線技師4名、栄養士4名、検査技師7名、理学療法士3名、透析技師3名、ほか合計256名



近森会の出来事	月日	西暦
近森外科開設（8床）	12月24日	1946
近森病院開設許可	6月25日	1948
有限会社近森病院設立	10月1日	1949
医療法人近森会開設許可	6月27日	1950
呼吸器科開設		1951
整形外科開設	3月	1952
内科開設	9月	1958
救急病院告示	6月30日	1964
本館隣地に手術センター及び病棟増築（地下1階5階建）《Ⅰ期棟》	12月15日	1967
脳神経外科、精神科開設	4月	1968
本館（地下1階7階建）改築《Ⅱ期棟》（現本館A棟）	5月1日	1973
消化器科開設		
人工腎臓設置透析療法開始	6月4日	1974
本館増築（地上9階建）《Ⅲ期棟》、理学療法科開設	7月1日	1976
麻酔科開設	4月	1979
精神科病棟新築	4月12日	1983
新7病棟を第二分院と改称、本院の精神科病床廃止	10月1日	1984
泌尿器科開設	10月	
形成外科開設	11月	
近森正博理事長逝去、近森正幸理事長兼近森病院院長就任	11月26日	
寿平安閣を購入、管理棟に改装（現北館東側）	9月9日	1985
本館増改築工事着工	5月24日	1986
リハビリテーション科開設（石川誠）	6月9日	
「ひろっぱ」創刊	7月15日	
分院基準看護体制スタート	10月1日	
近森病院中央診療部完成	2月	1987
小児外科開設（北村龍彦）	12月1日	
近森病院基準看護特2類、特3類承認	6月1日	1989
トータルコンピューターシステム第一次稼働	7月1日	
近森リハビリテーション病院開院	12月1日	
近森会シンボルマーク決定	12月1日	
新館竣工	7月27日	1992
老人保健施設いごっばち開設	12月1日	1993
在宅総合ケアセンター開設	4月	1994
第二分院に精神科訪問看護ステーションラポールちかもり開設	1月5日	1996
在宅総合ケアセンター近森完成	5月1日	1998
高知メンタルリハビリテーションセンター開設	5月1日	1999
心臓血管外科開設	7月1日	2000
ICU（特定集中治療室）開設	7月	
近森リハ病院回復期リハビリテーション病棟届出受理	8月	
ER、ハートセンター開設	10月1日	2002
総合心療センター近森 第二分院新築	11月1日	
近森病院地域医療支援病院承認	2月25日	2003
近森病院管理型臨床研修病院指定	10月	
近森病院DPC導入、看護基準7:1	4月1日	2006
近森正幸が社会福祉法人ファミーコ高知理事長に就任	4月1日	
電子カルテ本格稼働	10月1日	
近森オルソリハビリテーション病院開院	10月1日	2007
高知リハビリテーションセンターが高知県より移管を受けて事業を開始	4月1日	2008
近森病院災害拠点病院指定	9月11日	2009
近森会健康保険組合設立	10月1日	
社会医療法人認定	1月1日	2010
近森病院5カ年計画スタート	2月25日	
近森病院救命救急センター指定	5月16日	2011
近森病院外来センターでの診療開始	11月7日	
近森病院北館完成	4月2日	2012
近森病院新館改修完成	7月31日	
近森病院・近森病院第二分院統合	10月1日	2013
近森病院本館A棟完成	7月31日	2014
近森病院附属看護学校開校	4月1日	2015
近森リハビリテーション病院新築移転	8月29日	
70周年	12月24日	2016

# 70 周年沿革

# 50 周年

1996 年

近森病院 387 床、第二分院 104 床、  
リハ病院 145 床、合計 636 床、職員数 877 名

## 元号 月日 社会の出来事

昭和 21 12月 21日 南海大地震  
 昭和 23 7月 30日 医療法公布  
 昭和 24 11月 3日 湯川秀樹が日本人初のノーベル賞受賞  
 昭和 25 1月 7日 千円札発行（聖徳太子）  
 昭和 26 1月 3日 第1回 NHK 紅白歌合戦放送  
 昭和 27 4月 10日 NHK ラジオドラマ「君の名は」放送開始  
 昭和 33 12月 1日 一万円札発行（聖徳太子）  
 昭和 39 10月 10日 東京オリンピック開催（～24日）

昭和 42 日本血液銀行協会、売血の全廃を決定  
 昭和 43 12月 10日 3億円強奪事件  
 昭和 48 10月 6日 オイルショック

昭和 49 10月 14日 巨人軍長嶋茂雄の現役引退  
 昭和 51 2月 ロッキード事件発生  
 昭和 54 10月 26日 「金八先生」放送開始  
 昭和 58 4月 15日 東京ディズニーランド開園  
 昭和 59 3月 18日 グリコ・森永事件発生

昭和 60 8月 12日 日本航空 123 便墜落事故  
 昭和 61 4月 26日 チェルノブイリ原発事故

昭和 62 4月 1日 国鉄民営化  
 平成元 11月 9日 ベルリンの壁崩壊

平成 4 4月 25日 歌手の尾崎豊が死去  
 平成 5 10月 28日 ドーハの悲劇  
 平成 6 6月 27日 松本サリン事件発生  
 平成 8 12月 2日 アムラーが流行語トップテン入賞  
 平成 10 2月 7日 長野オリンピック・パラリンピック開幕  
 平成 11 12月 31日 ミレニアム問題が騒がれる

平成 14 7月 19日 二千円札発行  
 平成 15 10月 1日 千代田区で全国初の歩きタバコ禁止条例施行

平成 18 3月 20日 イラク戦争  
 平成 18 1月 23日 ライブドア堀江社長が証取法違反容疑で逮捕

平成 19 7月 16日 新潟県中越沖地震  
 平成 20 6月 8日 秋葉原通り魔事件  
 平成 21 5月 21日 裁判員制度が開始

平成 22 1月 19日 JAL 会社更生法適用申請  
 平成 23 3月 11日 東日本大震災

平成 24 5月 22日 東京スカイツリー開業

平成 25 9月 7日 2020 年東京五輪決定  
 平成 26 4月 1日 消費税 8% へ  
 平成 27 3月 14日 北陸新幹線開業

平成 28 4月 14日 熊本地震



▲外科／左端が北村龍彦現副院長、右端近森理事長の隣がカメラ目線の八木現部長（以下、1996 年発行の『近森会 50 年の歩み』当時のもの）

▼左が梶原看護部長（現顧問）右が宇田和子本院総婦長（当時）



▲前列中央が浜重直久現副院長で 1988 年（S63）の着任より内科を担ってきた。左から川井和哉現循環器内科主任部長、吉村神経内科リハビリクリニック吉村耕一院長、樂枝弘司現消化器内科主任部長、山崎正博現神経内科主任部長



▼明神和弘総合心療センターセンター長



▲1985 年（昭和 61）着任の初代リハ病院院長の石川誠先生（旧リハ病院訓練室にて）



宮崎洋一総合心療センター副センター長▲



▲当時勤続 20 年の川添鼻管理部長（現・顧問）



▲近森病院第二分院（現・総合心療センター）職員で。左端が 1981 年着任の田村分院院長



## 今一番の楽しみ

健康管理センター  
保健師 小笠原 真佐与



今一番の楽しみは8歳になる息子のサッカーの試合を観ることです。

私自身、サッカーには全く興味がなく、息子自身がサッカーで遊ぶ姿もみたことがなかったので、サッカーを始めたいと言われた時は続けられるのだろうかかと心配でした。いざ始めてみると、汗だく泥まみれの格好で「お母さん、ただいま」と満面の笑みで帰ってくる姿をみて不安もどこかに吹き飛んで行きました。

サッカーを始めて半年、試合にも出るようになりました。始めたころは目の前にきたボールを蹴ることでせいっぱいでしたが、いまではボールを奪おうと必死に追いかける姿や、守ろうと奮起する姿を見ると、ついつい我を忘れて声援を送ってしまいます。

サッカーを通じて、普段の生活の変化や世代を超えた友達との交流を垣間見ることができ、その度に息子の成長を感じます。上級生になると試合数も増えてくるので、これまで以上にスキルへの探求心やチームメイトとの連携プレイの向上、なによりも勝負への執着が強くなることを期待し、これからも楽しみです。

おがさわら まさよ

## 企画課

## ファシリテーションを意識して

診療支援部  
部長兼企画課長 山崎 啓嗣



近森病院開設70年。大きな組織となった近森会で、企画課は誕生して5年の新しい部署です。主にプロジェクトチームとして業務を担当することが多く、以下のような業務に関わってきました。

- ・近森病院建築5カ年計画に係る調整（設計、施工業者との調整、内覧会、引っ越しなど）
- ・医療機器購入にあたっての経営意思決定支援
- ・診療現場の環境整備
- ・看護学校の設置認可申請
- ・診療実績データの分析
- ・各種学会事務局の支援
- ・補助金申請
- ・医療機能評価取得に向けた対応
- ・各種委員会の運営支援及び再編
- ・会議体の運営支援
- ・中高生病院体験ツアーの開催
- ・新規プロジェクトの実行（例. 看護師特定行為研修施設認可に向けた申請）
- ・その他、各種調査及び照会事項への回答、など

ルーチンワークは少なく、いろんな業務を担当するため、コーディネータ力やコミュニケーション力など“総合力”が求められる部署だと感じています。また、事務的な視点で効果的、効率的に思えることであっても臨床現場から見ればまったく違う意見をいただくこともあり、現場の問題意識、立場を理解し、一緒に考えることを大切にしています。

高度急性期からリハビリテーション、在宅復帰まで、トータル医療を提供する近森会グループにおいて、“単に情報を集める部署ではなく情報を戦略へと展開する、またはそのきっかけを作る部署となる”ことを目指しています。

やまさき ひろつぐ

## 近森看護学校通信 12

## 専門領域の実習

当校の1期生も早や2年生となり、この10月末から専門領域の実習が始まりました。今年度は成人Ⅲ（慢性期）、老年Ⅰ、小児、母性、精神の5領域の実習です。小児・母性は外部施設での実習となり、実習のグループや進度はバラバラですが、各々が計画的に準備を整えています。領域によって対象となる患者さんの特徴や状況は違ったとしても、患者さんに何が必要なのかを一生懸命考え、実践できることを期待しています。

1年生の基礎看護学実習

に続き、各領域の実習でも近森会グループの皆さんには、温かいご支援をいただけますよう、よろしくお願い致します。

(田原 佳奈)





## リウマチは治せる病気に ～チーム医療の現場から～

近森病院 糖尿病・内分泌代謝内科

リウマチ・膠原病内科 部長 公文 義雄



7年ぶりに関節リウマチの市民公開講座が開催された。関節リウマチは治

せる病気になったとはいえ、臨床の現場では問題はまだまだ多い。



この数年で、診断や治療法が新たに示され、完解や低疾患活動性に向けての道筋も提示された。これには患者と医療者が目標を共有して骨破壊を抑える努力が必要であり、実行するには多職種に

わたるチーム医療が有用である。PTや栄養士からの助言は勿論、専門の看護師や薬剤師から治療を安全に受けるコツの説明や、SWからの社会医療制度の使い方などは患者のサポートには欠かせない。

我々は今、良質な医療の提供を求められている。医療連携の中でも信頼を得て、この波を広げていかなければならない。

くもん よしたか

### ハッスル研修医

高知に来て半年が経ちました。まだ分からないこと、できないことだらけで、もう半年が経ったということに焦りを感じています。ただ、周りの方々の支えのおかげで楽しく研修できています。失敗も多く要領も悪いですが、笑顔を忘れず、ゆっくりでも一歩ずつ成長していけたらと思います。

よく「珍しい名字だね」と言われますが、熊本由来らしいです。神戸で生まれ育ち、大学は島根で過ごしました。趣味はジブリ鑑賞と、お酒



初期研修医 竹之熊 哲也

をまったり飲むことと、中学から続けている卓球です。高知に来て日本

### ドクターGを目指して

酒の美味しさを知りました。病院内でも卓球経験者が多いと聞きましたので、何か交流する機会があればと画策中です。共通点のある方もない方も声をかけてくださると嬉しいです。

最近のうれしい悩み事は、病棟で猪谷先生とよく間違われることです(笑)。猪谷先生(写真後列)のようなドクターGを目指して努力していきたいです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

たけのくま てつや

### お弁当拝見 47 一押しおかずは卵焼き



近森病院言語療法科  
言語聴覚士 坂田 真実



私のお弁当は、学生の頃から母に作ってもらっています。お弁当の中で一番好きなおかずは卵焼きです。ネギ、ひじき、ウインナーなど日替わりで入っているものが違うので(入っていない時もあります)楽しみの一

つです。卵焼きを作るときに使う調味料で出汁やしょうゆ、塩などありますが、我が家ではすき焼きのたれを調味料として使っているようで甘くておいしいです。

すき焼きのたれと卵焼きは相性がばっちりなので是非使ってみてください。

さかた まみ

# かさはらクリニック 泌尿器科 皮膚科

高知市鶴来 11-38-10 あさくらメディカルビル3F  
 電話 088-855-3311 FAX. 855-3312  
 http: kasaharaclinic.com

地域医療に根差し、患者さん目線での治療を目標としています。家族にでさえ、なかなか相談しにくいのが泌尿器の病気です。「恥ずかしいから…」「もう年だから仕方ない…」という理由で受診をためらうことなく、気軽に受診していただけるよう、安心・リラックスのできるクリニックでお迎えしたいと思っています。一人で悩まずご相談ください。



笠原 高太郎 院長 高知の「龍馬マラソン」に毎年参加しています。

診療時間	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:30	●	●	●	／	●
14:00 ~ 18:00	●	●	●	／	●



クリニック探訪



かさはらクリニック

受付時間は診療時間終了の30分前まで  
 土曜は16:30まで、休診は木曜、日曜、祝日

## ニューフェイス ①所属②出身地

③最終出身校 ④家族や趣味のこと、自己アピールなど



すえよし ひろゆき ①循環器内科医師②大阪府③関西医科大学④趣味は酒・ゴルフ・麻雀です。高知に来てからは仕事と酒の毎日です。気軽に飲みに誘って下さい。

末吉 裕幸

## 人の動き 敬称略

## 図書室便り 2016年10月受入分

- 医師の職業倫理指針平成28年10月第3版 / 日本医師会 (編)
- 腎機能別薬剤投与量 pocket book / 日本腎臓病薬物療法学会 (編)
- 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015 / 日本老年医学会 (編)
- 高齢者のポリファーマシー 多剤併用を整理する知恵とコツ / 秋下雅弘 (編著)
- 解消! ポリファーマシー上手なくすりの減らし方 / 今井博久 (他編)
- 軟膏・クリーム配合変化ハンドブック 第2版 / 大谷道輝 (他編)
- 母乳とくすりあなたの疑問解決します 改訂2版 / 水野克己

### 《別冊・増刊号》

- 別冊整形外科 No.70 骨折 (四肢・脊椎脊髄外傷) の診断と治療 (その1) / 遠藤直人 (編)

## おめでとう

- 臨床栄養別冊 JCN セレクト 12 摂食嚥下障害の栄養食事指導マニュアル嚥下調整食 学会分類2013に基づくコード別解説 / 藤谷純子 (他編)
- 精神科治療学 31 巻増刊号統合失調症のベストプラクティス / 「精神科治療学」編集委員会 (編)
- 臨床と微生物 2016年10月43巻増刊号微生物検査における技術革新 / 小林芳夫 (編集主幹)
- HEART nursing 秋季増刊オールインワン不整脈治療 循環器ナース必見! ニガテ意識がクリアに! / 池田隆徳 (監)
- Nursing BUSINESS 2016年秋季増刊超実践看護師長のための診療報酬解説 BOOK 平成28 (2016) 年度改定対応版 / 大島敏子 (監)

### 《視聴覚資料》

- Audio-Visual Journal of JUA Vol.22 No.4 / 日本泌尿器科学会 (企・監)

## 2016年10月の診療数 システム管理室

### 近森会グループ

外来患者数	19,077 人
新入院患者数	1,011 人
退院患者数	1,018 人

### 近森病院 (急性期)

平均在院日数	14.99 日
地域医療支援病院紹介率	70.63 %
地域医療支援病院逆紹介率	146.21 %
救急車搬入件数	602 件
うち入院件数	332 件
手術件数	508 件
うち手術室実施	334 件
うち全身麻酔件数	193 件

## 2016年10月 県外出張件数

件数 43 件 延べ人数 86 人

## 編集室通信

高知市都市美デザイン賞〜街並み・まちづくり部門〜受賞おめでとうございます。昭和40年代の真っ黒く、異臭を放つ江の口川を知っている世代にとって高知橋から見える景色には隔世の感があります。もつと川を近くで感じられるように遊歩道が整備されたらうれしいですね。 ○和



# 夢は諦めない限り必ず実現する

## 「出来ません」という単語はない!

施設用度課の楠瀬達也課長は、「筒井ディレクターに何かを依頼して、『出来ません』といわれたことがない。責任感が強く、とても信頼できる」と、その仕事ぶりを自信たっぷりに話してくれた。

自分自身の成長目標を自身にきちっと明確にさせる企業。これが、四国管財の特徴のひとつといえるのだろうが、その典型が筒井ディレクターなのではないか、経歴がそれを物語っている。

もともと実家は農家で、跡を継ぐ道もあったが、「自分がどう在りたいか」に、素直に従った結果が、今日に繋がったといえそうだ。

県立実践農業大学校を卒業したあと、同校の校長を務めていた親類の薦めもあり、南米のブラジルまで一年間の農業留学に挑戦した。最後の一月のご褒美旅行ではアマゾン川を下り、リオはカーニバルの時期で町には入れなかったが、サッカーの日本代表が試合をしたナタールをはじめ、地球の裏側の観光もあちこちできた。

しんどい経験の多い農業実習だったが、帰国後、「儲けを得て生活していける自信がない自分が、農業を続けていくのでは、妙に夢がない」とだんだん考えるようになり、結局、四国管財に入社したのが12年前の秋だった。

## 参謀の喜びとやり甲斐

「歳の近い兄と妹に挟まれて育ったせいか、芯のところで、脇役として誰かを支えるのが自分は落ち着くし、自分らしいと思える」。こんな自覚がある筒井ディレクターには、「主役ではなく、空気みたいな存在で、邪魔をせず環境を調える」といった四国管財の企業風土がしっくりくるようだ。

朝8時から夕方5時という就業時間はひとつの目安で、ラッシュの時間帯を避けたい思惑もあり、30分前に

は着いているし、「本隊が働き終わったあとに出番がある」ような考え方を持っただけだ。

というと、キレイごと聞こえそうだが、脇で支えることに意義を見い出さず、いわば参謀の役割には、「参謀なりの喜びややり甲斐がある」と、満更でもないようす。「いわれたことが出来ない、などという返答はハナから考えられない」し、「どうしたら出来るか考えて当たり前」。つまり、四国管財社長が常々いわれる「夢は諦めない限り必ず実現する」にも通じる、「出来るようにやる」という考え方である。

## 夢は四国管財で「定年」を迎えること

近森会の現場でも、四国管財本社でも、「別の誰かに代われる仕事ではあっても、自分には自分にしかできないやり方がある。自分たちのこの色は自分たちにしか出せないと思う」と、きっぱり。自分たちがやっていることに対するこの自負が、他のスタッフにも勇気を与えているに違いない。

夢は「65歳の定年を四国管財で迎えること」だそうだが、20年以上先を見据えて、それを「自分の夢」と宣言できるのは、やっぱり選んだ仕事に悔いがないゆえなのだろう。

職場結婚した妻は、幼稚園の年少組の娘の子育てのために、本社勤務からいまはパートに切り替えた。実はこの春、6歳の長男を病気で亡くするという悲しい出来事があった。

その苦しみを何とか乗り越えられたのは、「生と死が隣り合わせの救急医療を担っている近森会という現場にいたことが大きかったと思う」と感慨深げ。「皆さんに後押ししていただけたし、自分もしっかりしなければと歯を食いしばる思いもあった」という。

## 趣味にはお金をかけません(笑)

ところで、仕事の時間が長そうだが、趣味ももちろん語るほどある。

おつきあい程度のゴルフは少しずつ



▲昼休みに行うミーティング「ベーシック」で



▲農業留学ご褒美旅行、イグアスの滝で

道具が増えているらしい。「お金持ちの趣味みたいに思われがちですが、お金はかからないんです。海でも山のスポーツでも、経費は変わりませんよ」。

ゴルフの腕前には触れず、「経費の少なさ」を力説されるのが何とも微笑ましい。経費の少なさは、ホントは誰に向かって強調したい話だろう(笑)。

**職員対象 第63回 新シリーズ**  
**チカモリ・シネマクラブ**

# 障害者福祉サービスセンター「ウェーブ」



◀三家クリニック  
の三家英明院長

平成 28 年 10 月 29 日、近森病院付  
属看護学校にて「障害者福祉サービス  
センターウェーブ 10 周年記念セレモ  
ニー」を開催しました。

当事業所施設長とも縁の深い三家ク  
リニック院長の三家先生やスタッフの  
方々からの講演、ウェーブで実際に働  
いている利用者 2 名からの発表など、  
とても感慨深く、10 周年にふさわし  
い貴重な会となりました。

ウェーブがここまで活動を続けられ

## 10 周年記念セレモニーを終えて

障害者福祉サービスセンターウェーブ  
サービス管理責任者 沼 慶子



たのも、これまで支えてくださった近  
森病院、ハビリテーリングセンター、  
各関係機関、それにウェーブを利用し  
てくださっている方々とそのご家族の  
おかげだと思っています。

ウェーブは昔、福井・塚ノ原の 2 カ  
所で民家や店舗などの空家を借りて  
小さな作業所として長年活動し、平成  
18 年に社会福祉法人として再スタート、  
そして平成 20 年に現在の愛宕へ  
移転しました。利用者数も今では 20  
名から 40 名へと増加し、作業も軽作  
業のみでなく清掃作業やクリーニング、  
移動販売など拡大しています。

私がウェーブに就職して来年 1 月で  
9 年目となります。ウェーブとともに  
歩んだ 9 年間は実に濃密で山あり谷あ  
り、谷あり谷あり…でしたが、一緒に  
働いたスタッフらとその頃を振り返る  
と、今となってはとても懐かしく苦勞  
したことも笑い話に変わっています。

今後も 15 周年、20 周年をウェーブ  
としてどう迎えたいのか、私自身がど  
うなっていたいのかを考えながら、熱  
い魂をもつ施設長とスタッフとともに  
歩んでいけたらと思っています。

ぬま けいこ



▲近森病院附属看護学校 ff ホールで行われた障害者福祉サービスセンター「ウェーブ」の 10 周年記念セレモニーでの記念撮影

## ファミリー高知のパンフレットが出来ました。

